
中目黒どろんこ保育園

令和7（2025）年度

福祉サービス第三者評価結果報告書

株式会社 学研Advance



1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>1)「にんげん力」を身に付けるために必要な遊び・野外体験を提案実践し“自分で考え、行動する思考”を育みます。 2)10よりも100の経験を与え、子どもが“したいと思う活動”を安全に行えるように見守り、支援してゆきます。 3)“感じたこと・考えたこと”を言葉でジェスチャーで、表情で、描いて、造って、表現できる子どもを育成します。 4)「0を1にかえる力」を日本中の子どもたちにつけ、物事を投げ出さずに向き合う若者が社会を支える世の中を創ります。</p>
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育現場で求める人物像 現状に満足せず自己の成長を常に意識している人 やって見せてあげて背中であげて教える人 より良い保育を目指して創意工夫していける人 ・社会人としての質向上 忙しさや大変さを表情や口調に出さず、いつでも笑顔で心がける。お願いします、ありがとうございます、など仕事中の言葉遣いに注意し、正しい日本語を身に付ける。子ども全体を見て自分が今、何をすれば良いのかを判断して、自ら行動したり、提案する。 <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育士としての質向上 子どもの命を預かる重みを自覚し、守らなければいけないことを遵守し、常に平常心で子どもと接する。後輩には自分の知識を教え、育てる気持ちを持ち、一人ひとりがリーダーになるという気持ちで責任を持って保育を行う。

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	保育目標のひとつとして「食の循環」を知ると共に、加工した食品を保護者や本社職員に販売するなど、食育活動に積極的に取り組んでいます
	内容	園では年間計画に基づいて、積極的に食育活動に取り組んでいます。園庭で飼育するヤギの糞を発酵させて作ったたい肥を使って、畑やプランターで野菜を育てています。収穫した大根はたくあんにしたり、園庭に実のみかんはオレンジピールやシロップ漬けに、柿は干し柿にして季節を体感しています。梅干しや味噌づくりなどを通して「食」への興味関心を深めています。金融教育の一環として味噌を使った五平餅や干し柿などを保護者や本社職員に販売しています。近隣の商店の協力で値段や包装の仕方を調べたり、飲食店で調理の仕方などを聞いています。
2	タイトル	保健教育を通して「命」の大切さと自分の体のことを知ると共に、自分の存在を肯定しながら周りとの共生することを学んでいます
	内容	本当のことを教えること(=怒らない、ごまかさない、嘘をつかない)に重点を置きながら、施設長が保護者の意向に沿って5歳児に性教育を行っています。1回目は体の不思議と大切さをテーマに、人体パズルで遊びながら女の子と男の子の体の違いを知り、パネルを使って水着に隠れた場所の大切さを伝えています。2回目は「大きくなった喜び」をテーマに卵子から妊娠3か月、妊娠10か月の胎児人形を抱いて、体重や大きさを体感しています。保健教育を通して、命の大切さを知り、自分の存在を肯定しながら周りとの共生を学ぶ機会を大切にしています。
3	タイトル	緑豊かな街並みに溶け込む大きなガラス窓が印象的な外観とゆったりした室内空間、広い園庭、そして屋上庭園など、保育環境が整っています
	内容	整った保育環境が大きな魅力であり、保護者からも好印象を持たれています。緑が多い街並みに溶け込む全面ガラス窓の外観が目にとまります。玄関ホールから続く空間もゆったりと設けられており、安全に配慮した環境設定が感じられます。木材を基調とした柔らかな印象の保育室は、0歳児の部屋を除いて仕切りが無く、開放的な印象です。ヤギが飼われている園庭には多くの実のなる樹木が植えられており、柔らかな日陰を作っています。街並みが一望できる屋上庭園では野菜などを育て、全面ガラス張りの2階は地域に開放。整った保育環境が評価されます。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	就学に向けて不安をやわらげ、期待を膨らませる取り組みを行っていますが、よりスムーズな移行に向け更なる工夫と取り組みが期待されます
	内容	全体的な計画及び5歳児と小学校1年生との年間連携計画において、小学校との連携について記載しています。施設用、主任が同行する1年生のクラスでの勉強体験や作品展の見学、理科室、図書館などを回る「学校探検」を通して、就学への不安をやわらげ、期待を膨らませるように配慮しています。しかし、施設長は小学校の先生との情報交換や交流が進んでいないとの印象を強くしています。送り出す側と受け入れる側の温度差が課題となっている中で、スムーズな移行には課題がありますが、地域性も考慮しながら更に計画的に進めていくことを期待します。
2	タイトル	お迎え時、職員の声掛けに関する保護者からの意見を受け止め、目標とする「3分間対応」の実践に向け改めて職員間での共有が期待されます
	内容	園はお迎え時3分間を目安に子どもの様子をできる限り詳しく保護者に伝えることを目指す「3分間対応」を目標に掲げています。遅番の保育者は引き継ぎを徹底しながら日中の子どもの様子を分かりやすく伝えるように努め、個別対応が必要な場合には面談につなげる取り組みを行っています。しかし利用者アンケートでは「些細なことまで伝えてくれる」という好意的な意見が多い反面、「職員によってばらつきがあるという」意見も寄せられています。目標とする「3分間対応」の実践に向け、改めて話し合う機会を設けるなど職員間での共有が期待されます。
3	タイトル	保護者の有志が主導する「どろんこサポーターズ」の活動はありますが、保育参加の機会を増やすことで保護者交流の深まりが期待されます
	内容	園を取り巻く環境もあり保護者の保育への関心が高く、様々な形で園の活動に対する支援を行っています。そのひとつが保護者の有志が主導し園と連携しながら活動する「どろんこサポーターズ」です。行事運営のサポートや防災、ピクニック、キャンプなど多彩な取り組みを行っています。施設長は更に保護者同士及び園と保護者のつながりを深めるために、保護者の「保育参加」の機会を増やすことを目指しています。園の活動に対する支援と共に、保育の現場に入り、子どもの様子や保育士の対応を知ること、さらに園への理解が深まることが期待されます。

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-1	子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている
タイトル①	園舎を「大きな家」と捉え、乳児から異年齢及びインクルーシブ保育を実践しています	
内容①	園舎を大きな家と考えており、乳児から異年齢及びインクルーシブ保育を実践。隔たりが無い部屋で1歳児から5歳児がそれぞれのコーナーを自由に行き来し、きょうだいのように生活を共にしています。0歳児も下期から異年齢保育を取り入れています。そんな中でお互いを思いやる心が育っており、散歩も異年齢の子どもが一緒です。子どもたちが頼り合い、時にはぶつかりながら、系列の発達支援ルームと連携してインクルーシブ保育に取り組んでおり、職員が健康や発達状態を理解しながら援助をしています。みんな一緒に「育ち合う」環境を整えています。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-3	日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している
タイトル②	多様な視点から子どもたちの姿を捉え自らの意思で自由に行動できる環境を整えています	
内容②	素朴な疑問や興味・関心、小さな発見、つぶやきなどを見逃さないように、多様な視点から子どもの姿を捉えた保育に努めています。職員は常にコミュニケーションを取りながら、職域を超えたチームで子どもたちを多面的に見守っており、異年齢が混ざり合って自らの意思で自由に活動できる環境を整えています。また職員間における連携意識を高めるために、チャットを利用しながら子どもに関する情報やノウハウを共有しています。「目指す子どもの姿」や園目標に沿った行動を目指して園内研修を実施。子どもたちの生活及び遊びの充実に取り組んでいます。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	3-3-2	地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている
タイトル③	地域における子育て支援拠点として「ちきんえつぐ」など様々な活動に取り組んでいます	
内容③	施設長は子育て家庭に対する保育の補完及び支援拠点として、保育士はじめ看護師、栄養士が常勤する園の役割に注目し、様々な活動に積極的に取り組んでいます。地域子育て支援カフェ「ちきんえつぐ」を運営。誰でも子育て相談ができる環境を整えると共に、地域のニーズに応じて園の1室を開放。自然食堂や自然教室など、地域子育て支援カフェ「ちきんえつぐ」活動を積極的に支援しています。地域住民や福祉関連施設、行政とも積極的に連携を図りながら地域資源として園を利用することを進めており、様々な活動を通してネットワークが広がっています。	

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている ○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している ○非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている ○非該当
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している ○非該当
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている ○非該当
	カテゴリ1の講評	
	本部が目指す理念、基本方針は様々な機会を捉えて職員及び利用者へ周知を図っています 本部及び園は「私たちの子育て」とする考え方の基に理念及び基本方針、デイリープログラムを構築し、職員及び保護者に周知を図っています。園の玄関に基本運営理念、保育目標などを掲示。入園のしおりや保護者懇談会などでの説明と合わせて、保護者が日頃から理念・方針への理解を深める機会となっています。職員には年1回の本部全体研修で代表が理念、方針について直接話すと共に、新年度を前に職員全員で園の方針を検討する「策定会議」及び「キックオフミーティング」、新卒職員対象のOJT研修などを通して周知を図っています。 施設長は自ら策定する事業計画書を基に園が目指す方向性を個々の職員に提示しています 本部全体会議で示される方向性をベースとして、園運営の具体的な施策に落とし込まれる営業本部が策定した運営ミッションを基に、施設長が事業計画書を作成。全員参加の策定会議において施設長自らが新年度における園の目指す保育について職員に説明し理解を求めています。日々の保育においても常に「子ども主体の保育」に立っているかを確認し、振り返りを通して職員が園の目指す方向性を見失わないようにサポートしています。施設長は園全体を考え育成を担うリーダー層には役割への自覚を促し、新卒職員には保育の基本から丁寧に伝えています。 重要案件に関する意思決定及び職員、保護者へ周知と理解に向けた仕組みが整っています 本部全体の経営に関わる重要案件は策定会議から月1回の園会議などを経て職員への周知が図られ、園運営に関する重要案件は園会議で検討した後「園の意志」としてまとめ、運営本部に提言しています。急な検討を要する場合は施設長、主任も参加して毎週行われるミーティング及びクラスリーダー会議、週案会議などを通して討議。決定に至ったプロセスなどは議事録の閲覧やチャット、口頭伝達、シッターノートを通して共有し、議事録や資料には押印による確認を義務付けています。保護者にはSNSやお便り、掲示などで周知を図っています。	

カテゴリー2		
2	事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行	
サブカテゴリー1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリー2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリー2の講評		
<p>アンケート及び面談などを通して意見や意向を確認し、ニーズの把握に努めています</p> <p>毎年8月下旬から9月初旬に利用者アンケートを実施し、行事や保育内容などの改善に努めています。保護者の希望に沿って随時、面談を行い、保護者懇談会は園での様子を伝えと共に、意見などを聞く機会となっています。連絡帳アプリや玄関に置かれたご意見箱からも保護者の声を聞いています。本部での研修やオンラインによる社内報などを通して対応者を変えながら個人面談を実施。毎年9月に実施する「キャリアデザインアンケート」によって次年度に向けた意向や希望を確認すると共に、3年後、10年後にあってほしい自分の姿など、個々のビジョンを聞いています。</p> <p>在宅の子育て家庭の支援活動及び関連施設との連携などを通してニーズを把握しています</p> <p>保育園入園希望者や在宅子育て家庭などを対象に、「ちきんえっく」と総称する様々な支援活動に取り組んでおり、地域福祉の現状やニーズを把握する機会となっています。施設長は区の私立保育園施設長会議に出席。地域の福祉関連施設とも連携しながら課題の把握に努めています。本部での研修やオンラインによる社内報などを通して保育事業全体の情勢を把握。「保護者と一緒につくる保育」へのニーズが高いことから、積極的に保育参加の推進に取り組んでいます。経営状況は毎月の予算管理表で把握。本部と課題を共有しながら園運営に取り組んでいます。</p> <p>3年後を見据えた中・長期計画を策定し、目標達成に向けた仕組みも整えられています</p> <p>毎年、運営本部が策定した運営ミッションとして提示される基本方針に沿って策定会議で事業計画及び全体計画を決定しています。事業計画書では当年度以降の3年計画が示され、目指す姿及び重点施策が明記されています。事業計画は毎年振り返りを行った上で年間指導計画を策定。必要経費は事前の予算編成を経て事業計画に盛り込んでいます。園の基本方針実現に向けて処遇改善を受けた職員がリーダーとしての意識を持って業務に当たっています。毎月の園会議でグループに分かれて計画の進捗状況などを話し合い見直しや改善につなげています。</p>		

3			カテゴリ-3	
経営における社会的責任				
サブカテゴリ-1(3-1)				
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2	
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる				
評点(〇〇)				
評価		標準項目		
●あり ○なし		1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし		2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的確認している。		○非該当
サブカテゴリ-2(3-2)				
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4	
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている				
評点(〇〇)				
評価		標準項目		
●あり ○なし		1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている		○非該当
●あり ○なし		2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある		○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている				
評点(〇〇)				
評価		標準項目		
●あり ○なし		1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している		○非該当
●あり ○なし		2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている		○非該当
サブカテゴリ-3(3-3)				
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5	
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる				
評点(〇〇)				
評価		標準項目		
●あり ○なし		1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし		2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している		○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている				
評点(〇〇〇)				
評価		標準項目		
●あり ○なし		1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている		○非該当
●あり ○なし		2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している		○非該当
●あり ○なし		3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる		○非該当

カテゴリ3の講評

苦情や意向などに対応する仕組みを整え、虐待防止に向けた対策にも万全を期しています

苦情解決に向けた園の取り組みは入園時に説明すると共に、第三者委員も含めた解決に至る仕組みなどを分かりやすく図式した書面をリングファイルし、保護者がいつでも確認できるようにしています。意見や苦情は「ご意見・ご提案シート」に記録して本部、職員間で共有。解決に向けた取り組みを報告書に記入しています。虐待の定義はマニュアルで明確にすると共に、新しい年度前の「キックオフ研修」及び年2回の虐待防止研修で子どもの人権について振り返りを行っています。「虐待早期発見チェックリスト」を基に対応に向けた仕組みを整えています。

地域社会に開かれた園としての印象を強くしながら、地域福祉の向上に取り組んでいます

区内で初めての民間委託として運営を担って8年余。その責任と使命感を背に一步一步、職員、保護者と丁寧に積み重ねてきた一つひとつの取り組みが「地域に開かれた園」としての高い評価につながっています。写真を多く使った活動内容から財務状況まで明示するホームページやどろんこ会グループの理念から入園に当たっての必要事項まで紹介する入園のしおりなど、透明性を高める取り組みが地域社会及び利用者からの信頼感を高めています。明日の保育を担う保育実習生や小・中学生の職場体験、ボランティアも毎年数多く受け入れる態勢を整えています。

「居場所づくり」の拠点として園を開放するなど地域ネットワークの構築に努めています

地域ネットワークの一員として様々な活動を活発に行っています。子育て支援活動として「ちきんえっぐ」計画に取り組んでおり、毎週、食育をテーマにした「自然食堂」や表現がテーマの「芸術学校」、大人と交流する「寺親屋」そして「自然学校」など、施設2階のスペースを開放して実施しています。社会福祉協議会と連携した「居場所づくり」として園を活用する取り組みも新たに始まりました。消防署や警察署の協力で通報訓練や交通安全教室を実施。内科、歯科医師及びケースワーカー、保健師と連携を密にし子どものこころと身体の支援をしています。

4 カテゴリー4		
リスクマネジメント		
サブカテゴリー1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(00000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリー2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(0000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリー4の講評		
<p>「子どもの命」に関わることを最優先に、様々なケースを想定した訓練を実施しています</p> <p>事故や災害はもとより、何よりも「子どもの命」に関わることを最優先に捉えており、避難訓練や不審者侵入訓練、水の事故に対する勉強会や訓練など、様々なケースを想定しながら定期的に訓練を実施しています。万が一、事故などが発生した場合は本社からの指示と合わせて、迅速に対応する仕組みが整えられています。見失い・置き去り防止に向けて人数確認リーダーを定めると共に、2名以上のダブルチェックを徹底しています。けがに関してはリスクマネジメント研修などで学習。重大な事故などは「事故防止委員会」で共有し再発防止に努めています。</p> <p>事業継続計画及びクライシスマニュアルを策定して有事に備え避難訓練を実施しています</p> <p>災害などを想定した事業継続計画及び重大事案に対応する「クライシスマニュアル」を策定すると共に、「大規模災害発生時対応フローチャート」「事故発生時対応フローチャート」に基づく対応策が整えられています。通院対応が必要なけがなどの事故に関しては事故記録簿で本部と共有すると共に、全職員で確認し原因究明と予防策を検討しています。「防災自主点検」で定期的に備蓄品チェックを行うと共に様々なケースを想定した避難訓練を実施。不審者侵入訓練も年2回実施しています。園の安全計画は保護者懇談会を通して保護者に周知を図っています。</p> <p>定期的に「情報セキュリティチェック」を実施するなど情報管理の仕組みを整えています</p> <p>年2回実施する「情報セキュリティチェック」を通して情報管理の重要性を周知、徹底しています。園児情報など気密性が高い情報は管理するパソコンを限定すると共にアクセス権限を設定しています。個人情報に関する書類は鍵付きの書庫で保管し鍵は施設長が管理しています。情報は本部と園で規定期間保管し適切に廃棄処分しています。USBメモリなどの外部記憶媒体の使用は一切禁止。園内の記憶装置NASに情報を集約させ本部と園が共有できるサーバーで整理・管理されています。職員が園携帯で撮影した写真は1週間以内の削除を義務付けています。</p>		

5			カテゴリ-5	
5			職員と組織の能力向上	
			サブカテゴリ-1(5-1)	
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	
			12/12	
評価項目1			事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている	
			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している		<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる		<input type="radio"/> 非該当	
評価項目2			事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している	
			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている		<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している		<input type="radio"/> 非該当	
評価項目3			事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる	
			評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目			
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している		<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している		<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している		<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている		<input type="radio"/> 非該当	
評価項目4			職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる	
			評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目			
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金・昇進・昇格等)・称賛などを連動させている		<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる		<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる		<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている		<input type="radio"/> 非該当	
			サブカテゴリ-2(5-2)	
組織力の向上に取り組んでいる			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	
			3/3	
評価項目1			組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる	
			評点(〇〇〇)	
評価	標準項目			
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している		<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている		<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる		<input type="radio"/> 非該当	

カテゴリ5の講評

職員一人ひとりが成長できることを考慮しながら、異動及び配属先の選定を行っています

職員の採用は基本的には本部一括ですが、地域媒体やハローワーク、養成校との連携、紹介制度などを通して園独自の募集活動も行っています。新卒の採用はもとより、本部と連携しながら離職防止に向けた仕組みを整え、人材の確保に努めています。意向調査に当たる「キャリアデザインアンケート」を実施。結果などを基に施設長及び本部担当課長がそれぞれの職員の個性や能力、成長を期待する点などを踏まえながら「成長できる場」を用意できるように異動・配属先を選定しています。リーダーとして後輩職員を育成可能な人材の発掘にも力を注いでいます。

個人目標を基にキャリアパスを明確にし、研修による育成にも積極的に取り組んでいます

どろんこ会グループ統一の「人事考課制度」が整備され、職員自らが将来の展望を描けるキャリアパスも分かりやすく明示されています。事業計画書には育成及び研修計画が定められており、リーダー育成にもつながる毎月の「子育ての質を上げる会議」などの様々な内部研修や、本部の外郭団体がオンラインで行う「保育士大学・園長大学」の受講を通してスキルの向上を図っています。目標管理制度(MBO)に当たる「かんばしい」を基に個人・組織目標を設定して年2回の施設長面談を実施。結果を基に目標達成に向けた研修及びサポートを行っています。

働き方への配慮や休暇制度、シフトの工夫を働きやすい環境、意欲向上につなげています

職員一人ひとりの職務姿勢や職責相応の働きが正当な評価、処遇につながるように制度を整えています。固定勤務制や育休明けから小学校6年生になるまで認める時短勤務、アニバーサリー休暇など、働きやすい環境に向けた工夫が行われており、本部からの補助金を利用した懇親会も職員に好評です。研修結果は会議や報告書を通して職員間で共有。本部が定める「グループ10か条」に基づいた職員間の活発な意見交換を改善につなげています。畑仕事など今年度の目標「原点回帰」の実現に向けたチームでの取り組みが子どもたちの新たな経験を育んでいます。

カテゴリー7	
7	事業所の重要課題に対する組織的な活動
サブカテゴリー1(7-1)	
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)	
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)	
<p>挨拶やトイレ、歯磨きなど、基本的な生活習慣が身につくように支援することを課題としました。子育てに熱心な保護者が多い地域性からか「自分のことは自分でする習慣」が身につけていない子どもが多いことに気づいたことが背景にあります。散歩に行く前にトイレに行けない子どもや散歩に持って行く荷物を自分で用意できない子どもなど、自分の生活がままならない子どもが多く見受けられました。子どもが人として生活し成長するために欠かせない生活習慣を身につけ、生活力の基本となる「あいさつ」が進んでできるようになるように支援を行いました。0歳児から年長児まで園児一人ひとりの「生活習慣自立チェック表」を作成し、経過を観察しました。また1年を4期に分けて進捗状況の確認も行いました。自分自身で生活の時間や遊びの時間を作り出せるかをポイントに見守った結果、保育園での過ごし方に意欲が持てるようになるなど生活の質(QOL)の向上につながりました。毎朝、8時30分から園でのリズムが始まりますが、結果的に一日を通して生活のリズムが整う効果も見られました。今後はもう一步深めた目標を設定。子どもが主体的に自分で考えて動けるように支援し人間力向上を目指します。</p>	
目標の設定と取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評	
<p>「三つ子の魂百まで」という言葉が故事にあるように、乳児、幼児期に身につけたことは一生変わらないと言われており、0～5歳児まで生活する保育園の役割は小さくありません。そんな中、園は子どもたちの多くが基本的な生活習慣を身につけていないことを危惧しました。散歩に出かける前にトイレに行けない子どもや散歩用の荷物を自分で用意できない子どもなどが多かったです施設長。自分で「どうしたらいいのかわからない。自分で自分の生活がままならない子どもが多くいることに気づきました。子育てに熱心な地域性も影響している可能性も考えられます。そこで、挨拶や身支度を整えるなど自分で考えて行動できるように生活習慣を身につけるための支援を課題としました。0歳児から年長児まで一人ひとりの「生活習慣自立チェック表」を作成し経過を観察。1年を4期に分けて進捗状況の確認も行いました。自分で考えて生活や遊びの時間を作れるかがポイントです。取り組みの結果、少しずつですが生活の質(QOL)が上がったと実感しています。毎朝、8時30分から始まる園での生活のリズムが一日を通して整う効果も見られました。目標を深めながら人間力向上に向けた取り組みを継続する予定です。</p>	

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

職員全員が参加する「策定会議」において決定された次年度の事業計画遂行に向けて、「チーム編成」と「役割分担(業務分掌)」の在り方について再検討することを課題として設定しました。行事の担当など一定の役割を担っているにも関わらず、自ら考え自らの意思で自主的に動いていないチームが散見されたことが背景にありました。チームを構成するメンバーにも業務に向き合う意識に高低差が見受けられました。チームとしてのまとまりに欠けており、結果は行事そのものの完成度や子どもたちのパフォーマンスにはっきりと現れました。子どもたち自身の満足度や達成感にも影響が出たと施設長は感じています。取り組んだのはチーム編成の方法を変えることでした。施設長や主任が選任する方法から、策定会議で次年度の事業計画を決めるに当たって、積極的に企画を「提案した」メンバーを中心にチームを組むことにしました。そして、そのチームが自主的に企画を動かす。園はチームを組んだ職員が達成感を持てるように支援する仕組みを整えました。その結果、職員による知恵がどんどん生まれ、これまでとは違う発想の展開も見られるようになりました。今後も職員の自主性を重視しながら園運営に取り組みます。

目標の設定と取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

年間行事や体験活動を決める際は、これまで決められた内容を踏襲して実施するのではなく、毎年一旦白紙に戻し、保育者一人ひとりが改めて「子どもたちにとって何が必要か」を考え、経験させたい内容を盛り込むように工夫しながらチーム編成を行っています。しかし、施設長の中には意図を理解しながら自主的に動いていないチームがあることに懸念を持っていました。構成メンバーの意識に高低差があるチームも散見されました。チームとしてのまとまりに欠けていることが、行事などの完成度にも表れました。子どもたちの満足度や達成感などにも影響があったと施設長は感じています。取り組んだのが施設長などによる選任から、自ら手をあげて志願をしたメンバー中心へ、チーム編成の在り方を変えることでした。次年度の事業計画を話し合いを決める策定会議でのプロポーザルを経てチームを組みました。園はメンバーが達成感を持ってやり遂げるように、仕組みを整えて支援しました。行事や活動内容は各チーム毎に検討会を実施して決めました。この取り組みはこれまでにない発想の展開につながりました。スタッフの知恵が行事や活動に生かされました。今後も職員の自主性を引き出す仕組みを整えて行きます。

II サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目		
	サブカテゴリ1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	4/4
	評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(0000)
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	<input type="radio"/> 非該当
	サブカテゴリ1の講評		
	<p>園及びどろんこ会グループのホームページを通して活動内容などの情報を伝えています</p> <p>ホームページは写真を多く使いながら見やすく工夫されており、保護者にとって知りたい情報も整理されてきめ細かく紹介されています。過去3年分を含めて毎月の園便り「どろんこだより」を掲載。園の様子が伝わるように工夫をしています。月曜日から金曜日まで、その月の行事や活動の予定が掲載されており、保護者にとっては子どもの様子を知るための有益な情報になっています。詳細な献立表と食育・保健便りを掲載すると共に、地域の子育て支援「ちきんえっぐ」活動の様子や予定を紹介。ブログではタイムリーに活動の様子などを発信しています。</p> <p>園の情報は行政や関係機関に提供しており、いつでも確認できるようになっています</p> <p>どろんこ会グループのホームページを通して行政及び関係機関に園の情報を提供すると共に、自治体ホームページにも園情報を掲載しています。必要に応じて区役所の保育課や児童館、子育て拠点施設、区内の産婦人科医院などにパンフレットや子育て支援活動を紹介する案内チラシなどを設置し、園への理解促進と共に見学会などの来園につなげています。利用頻度の高い公園やエレベーターの有無、駐輪可能台数、おむつの処分、貸しおむつの有無、シーツ布団カバーの準備、ベビーカー置き場、抱っこ・おんぶ紐の預かりまできめ細かく情報を提供しています。</p> <p>園見学は電話やホームページで受け付け、保護者の都合に合わせて日時を設定しています</p> <p>事前に電話やホームページから見学希望の連絡を受け、保護者の都合に合わせて見学日と時間を決定します。主に施設長と主任が対応。園舎案内の後に入園のしおりに基づいて保育理念、保育内容、発生費用などを詳しく説明し質問にも丁寧に応えています。散歩から帰ってくる11時から12時までの見学時には、着替えの様子や食事風景も見学します。妊娠中や生後4か月未満の子どもを持つ保護者の見学時には「出産を迎える親の体験学習」や「保育所体験」などの都の補助活動への参加を促しており、子育ての不安を少しでも解消するように支援しています。</p>		

サブカテゴリー2		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	6/6
2	サービスの開始・終了時の対応		
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○非該当	
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○非該当	
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当	
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当	
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○非該当	
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○非該当	
サブカテゴリー2の講評			
<p>入所前面談においてサービス内容などを詳しく説明し、保護者から同意を得ています</p> <p>入所前面談において入園のしおりに沿って丁寧に説明した上で、最後に重要事項説明書を職員が読み上げて説明に漏れがないかを確認し、保護者が署名、捺印しています。特に利用料金・延長保育予約にかかる部分については細かいルールが定められており、高額な請求が発生するケースもあることから、誤解のないように特に丁寧な説明を心がけ、入園後もその都度、声をかけて確認に努めています。保護者からの意向や子どもの個性、配慮すべき点、アレルギー有無などは面談表に詳しく記載し、会議などで職員に周知し情報共有を図っています。</p> <p>専用アプリで情報を把握し子どもや保護者の不安やストレスなどの軽減に配慮しています</p> <p>本部専用アプリの登録フォームで基本情報を収集して個人ファイルに記録し職員間で共有しています。慣れ保育は保護者から希望がある場合にのみ実施。乳児、特に0歳児の場合は子どもに合わせて同じ保育士が対応する担任制とし個々に合わせて環境に慣れるように配慮しています。アレルギーのある子どもは調理及び担任職員、施設長などによる個別面談を実施してアレルギー除去開始前面談表に記入。除去食申請書、生活管理指導票と共に保管しています。利用開始後は常に子どもや家庭の状況を把握し面談などを通して子育ての不安・相談に対応しています。</p> <p>転園、卒園を控える保護者の不安に対応すると共に卒園後もつながりを大切にしています</p> <p>転園や卒園に当たり保護者には園での様子から予想される小学校での姿を伝えて安心感を持ってもらうなど、不安を取り除くように導いています。転園に当たり、子どもの現段階での発達度合いを理解した上でスムーズな移行ができるように、保護者同意のもとで転園先に情報を提供しています。転園後や卒園後も運動会や園行事を案内すると共に、いつでも遊びに来られることや相談に応じられることを保護者に伝えています。ことに卒園児には長期休みを利用した職場体験活動への参加を呼びかけるなど、園とのつながりを大事にする取り組みを行っています。</p>			

サブカテゴリ-3		
3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 13/13
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している 評点(〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直ししている	○非該当
評価項目3 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄り等話し合う機会を設けている	○非該当
サブカテゴリ-3の講評		
子ども及び保護者のニーズ・課題に速やかに対応し、共有する仕組みが整えられています 保護者の意見や提案は随時受け付けており、原因や経緯、今後の対応などを話しあった上で「ご意見・ご提案シート」に記入。保護者に迅速に回答すると同時に、本部との情報共有を図っています。希望があれば随時個人面談を実施できることを保護者に伝えており、面談実施に「面談記録」を残しています。各年齢の担当者は毎月、個別計画を立てており、子どもの姿を振り返り「個別省察」に記録。毎月の幼児会議や隔月の乳児会議、クラス会議などで共有しています。全園児の個別計画などは本部専用のアプリ「保育業務支援システム」で閲覧が可能です。 指導計画は園の保育方針に基づき一人ひとりの状況に応じて作成し見直しを行っています 本部や園の保育方針に基づき作成された全体的な計画を踏まえて指導計画が作成されており、職員全員で本部の取り組みと園の目標、指導計画との整合性を図っています。次年度の事業計画を決める「策定会議」では生活発表会などの行事や食育について全職員が意見を出しあっており、一人ひとりの子どもにとって必要な経験を考えながら年間計画を作成しています。「行事と指導計画が連動しているか」「全体的な計画との整合性が図られているのか」などを確認しながら、月案・週案の評価及び見直しを行っています。 子どもの状況は常に把握に努めており、変化がある場合は職員間で共有し記録しています 子どもの記録は本部専用の保育業務支援システムなどで管理しており、保育運営マニュアル及び保育品質管理マニュアル内の個人情報保護規定に保管や扱い方法を明記しています。子どもや保護者の状況に変化があった場合はセンターノート兼お迎え伝達ノートに保護者からの情報を記入し、伝達漏れがないように工夫しています。園日誌及び保健日誌にも記録。朝礼及び昼礼、園会議などで共有しています。アレルギーのある子どもは定期的な面談を通して保護者と情報共有を図っています。毎年利用者アンケートを実施。改善策を全職員で検討しています。		

サブカテゴリー5		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	5/5
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重		
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている		○非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている		○非該当
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている		○非該当
サブカテゴリー5の講評			
<p>子どもの羞恥心に配慮しながら支援を行うと共に、5歳児の性教育にも取り組んでいます</p> <p>常に子どもの羞恥心や思いに配慮しながら支援を行っています。排尿を失敗してしまった場合は他の子どもたちから見えない所で着替えています。屋上庭園での水遊びやプールでは周りに黒いネットを張ると共に、全裸にならないようにラップタオルを使用。保護者の意向に沿ってラッシュガードを着用しています。3～5歳児の着替えはロッカーを男女別にしてあります。年長児を対象に性教育を行い、絵本などを利用しながらプライベートゾーンや命の大切さを伝えています。懇談会で施設長が幼児期からの性教育についてアドバイスしています。</p> <p>全ての職員が、子ども一人ひとりの興味・関心や思いを尊重しながら支援を行っています</p> <p>子どもたちの名前は必ず敬称をつけて呼び、「呼び捨て」や「あだ名」で呼ばないように徹底すると共に、製作物も名前に敬称をつけて展示しています。園及び本部の「自分でできることを自分でする」という目標に向けて、職員は子どもが興味を示したことはできるだけ見守り、好きな活動に取り組んでいる時は、安全を確保しながら必要最低限の補助を行うように努めています。全ての職員が半年に1回「人権チェック」を実施し、子どもの人権について改めて確認すると共に、自らの保育を振り返りながら、子ども一人ひとりを尊重した支援を心がけています。</p> <p>子どもや保護者の価値観や生活習慣に配慮し連携しながら毎日の保育に取り組んでいます</p> <p>子どもや保護者の価値観や生活習慣を理解すると共に園での生活を充実させるために、家庭と綿密に連携を取り合いながら支援を行っています。保護者は園専用の連絡帳アプリ「うちのこ」を利用して登園やお迎え時刻、体調や睡眠など、家庭での様子を登録。園からも子どもの様子を発信するなど、園と保護者が常に連携を図れるように仕組みを整えています。園舎内に活動の様子を写真で掲示すると共に、保育の意図などを保護者に伝え、成長を共有できるように工夫をしています。家庭での子どもの状況などは保育日誌や個人指導計画に記録し共有しています。</p>			

サブカテゴリー6		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	5/5
6	事業所業務の標準化		
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当	
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当	
サブカテゴリー6の講評			
<p>「保育品質マニュアル」を基に、保育の質の維持・向上を図る仕組みが整えられています</p> <p>本部共通の保育運営マニュアルが各保育園に1部ずつ配備されており、それを基に系列全園が共通の対応を行うように仕組みを整えています。全職員に本部の運営方針から保護者対応、地域との連携、園児の健康管理、危機管理、入会手続きに至るまで、保育に関わる全ての内容が網羅された「保育品質マニュアル」を配布。毎年4月に改訂を重ねながら共通理解を図り、安全に配慮した保育サービスの提供につなげています。1年に2回、内部監査室による内部監査を実施。命や安全に関わることを中心に、保育内容・保育環境などの点検を実施しています。</p> <p>緊急性を要するけがや病気などの対応は、フローチャートで分かりやすく表示しています</p> <p>全職員に携行が義務付けられている「保育品質マニュアル」ですが、中でも緊急性が求められる子どものけがや病気、衛生管理に関する事項はフローチャートにまとめられ、保育室内に掲示すると共に常に確認できるように配備。すぐに対応できるようにしています。マニュアルで定められた「事故防止チェックリスト」や「設備点検チェックリスト」を用いて定期的に点検し、実施漏れがないかを確認しています。職員は「保育品質マニュアル」を基に保育内容を確認し、事務所に常時保管されている「保育運営マニュアル」で園運営に関わる課題に備えています。</p> <p>保護者からの意見などは利用者アンケートで把握し改善点はマニュアルに反映しています</p> <p>保護者の意見や提案などは毎年9月頃に行われる「利用者アンケート」で確認し、改善に向けてた職員の話し合いを経てサービス内容の見直しにつなげ、「保育品質マニュアル」に反映させています。また保護者からの意見などは「ご意見・ご提案シート」にまとめ、是正計画の実施まで見届けています。毎年3月、全職員が参加しその年の事業計画について話し合う「策定会議」を実施。職員によるプロポーザルを基に「子どもたちにどのような経験をさせたいか」「子どもたちにとって何が必要なのか」を考慮しながら、行事や活動などの内容を決定しています。</p>			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ6-4)

		サブカテゴリ4	
サービスの実施項目		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	36/36
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている		評点(〇〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	○非該当	
●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	○非該当	
●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○非該当	
●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつぎ等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○非該当	
●あり ○なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	○非該当	
評価項目1の講評			
<p>発達過程に配慮しながら、遊びを通して子どもの「考える力」を育む環境を整えています</p> <p>月間指導計画は1か月間を見通した環境構成及び保育士の援助内容を明確にし、各年齢層の発達過程に配慮しながらも特に発達の程度や速度に個人差が大きい3歳児未満に関しては柔軟に作成するようにしています。日々の遊びを通して「考える力」を育む環境設定を行っています。園庭に設置した雨水タンクの水はいつでも自由に使えるようにしており、適切に配置されたスコップや鍋などの道具を使い、自分たちで遊びを考えながら動き回る姿が見られます。子ども自身が自由に人・もの・ことに関われるように各保育室は自由に行き来ができるようにしています。</p> <p>年齢や文化などの違いを認めながら、お互いを尊重できる心が育つように配慮しています</p> <p>園舎をきょうだいが暮らすひとつの大きな「家」と捉え、教室に壁をつくらず、クラス分けをしない異年齢保育を行っています。子どもたちが自由に遊ぶ相手や場所を選んで行動できるように「ゾーン保育」を取り入れており、日々の生活の中で自然とお互いをいたわり、尊重し合う心が育まれています。外国にルーツを持つ保護者の話を聞くなどの異文化体験が文化や習慣の違いを知る機会となっています。系列の発達支援施設と連携して配慮が必要な子どもを受け入れており、専門職が同行して無理なく他児と関わり、共に成長できるように支援を行っています。</p> <p>子どもの気持ちに沿ったトラブル対応を心がけ、小学校への円滑な接続を支援しています</p> <p>子ども同士のトラブルでは保育者がそれぞれの気持ちに寄り添って代弁し、あくまでも中立的な立場で関わるように配慮しています。0～2歳児のかみつぎなどによるトラブルは「成長過程のひとつ」と保護者に説明すると共に、状況を正確に伝えるようにしています。3～5歳児のトラブルは話し合いに導きながら、子ども同士で解決できるように見守ることを基本としています。小学校との連携や円滑な接続に関しては年度初めに計画書を作成。子ども同士の交流会や作品展の見学、学校探検、運動会、職員間協議などを通してスムーズな接続につなげています。</p>			

2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○非該当
評価項目2の講評		
<p>登園時には視診・検温と共に、保護者から家庭での様子を確認し全職員が共有しています</p> <p>登園した際は視診、検温を行うと共に、登園までの家庭での様子や体調、前日に体調不良で休んだ場合はその後の経過や当日朝の食欲などを、早番の職員が保護者から聞き取っています。保護者からの情報は「シッターノート兼お迎え伝達ノート」に記録。重要な事項に関しては朝礼などで職員間で共有しています。体調が思わしくない子どもに関しては保護者の希望に沿って室内活動などに変更。小まめに検温や体調確認を行い、お迎え時に詳細に状況を伝えています。全身状態も確認し家庭でのけがや気になる傷があった場合は社内チャットで共有し記録します。</p> <p>生活習慣は主体的にできることを目指して支援し、定期的に達成度合いを記録しています</p> <p>食事や排せつなどの基本的な生活習慣は発達に合わせて見守り、自分でできた実感が持てるように援助するなど、「主体的に行動できる保育」を意識的に行っています。「おむつ外し」も銭湯での「お風呂の日」に向けて3歳児までに完了することを目標にしていますが、子どもの個性や状況を見極めてタイミングよく誘ったり手助けをするなど、無理なく進めるように支援しています。全ての園児の基本的な生活習慣の達成度合いを4期に分けて確認しています。異年齢保育の中で年上の子どもが衣服の脱着や手洗いを手伝うことも習慣の向上につながっています。</p> <p>状況を見ながら生活のリズムを整え「3分間対応」で保護者に子どもの姿を伝えています</p> <p>休息は活動とのバランスを考慮しながら日々の保育に取り組んでいます。一定量以上の太陽光を身に浴びることで体内時計が整えられ、生活のリズムが生まれることから、長距離散歩を取り入れています。3～5歳児は散歩後に着替えて午睡の準備。給食後に3階のホールで午睡します。眠れない子どもを無理に寝かせずに別の部屋で遊ばせるなどの配慮をしています。5歳児は1月から就学に向けて午睡を無くしています。お迎え時には子どもの様子をできる限り詳しく伝えるために「3分間対応」の実践に努めており、遅番職員への引継ぎの徹底を図っています。</p>		
3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○非該当
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがまじりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当
評価項目3の講評		
<p>園舎を大きな家として「ゾーン保育」を実施するなど、自主性を育む環境を整えています</p> <p>自分の意思で主体的に活動できる環境を整備し「生活」と「遊び」を豊かにする保育を目指しています。園舎を大きな家と位置付けて「ゾーン保育」を実施。各ゾーンでは発達段階が違う子ども同士の関わりが生まれ、ゾーンのコーナーを自由に行き来して遊びこむ姿を通して自主性を育むように支援しています。0歳児は個々の発達に合わせて環境構成を見直し、1、2歳児は自我の芽生えと充実を尊重。3～6歳児は異年齢保育を通して自己肯定感を育むなど、一人ひとりの興味・関心に合わせて活動を選択できる環境を整えながら集団保育に取り組んでいます。</p> <p>保育士による応答的な関わりを大切にしながら言葉や表現への興味・関心を育てています</p> <p>一人ひとりの発達や心情に寄り合う応答的な対応を通して、言葉やコミュニケーションの楽しさを伝えるように支援しています。乳児については子どもが安心して自己表現ができるように、保育士は表情や仕草をよく見ながらの応答的な関わりを大切にしています。3歳以上児では「やりたいこと」を聞いたり、皆で話し合ったり、皆の前での発表したり。言葉で表現する機会を大切にしています。生活の中で心を動かされる美しいものを描いたり、作ったり、毎日の「さくらさくらんぼリズム体操」や「うた」など、表現する喜びが体感できる環境を整えています。</p> <p>戸外での活動を積極的に取り入れながら、季節の移り変わりや命の大切さを学んでいます</p> <p>自然や生きものに親しむ中で季節の移ろいや生命の大切さを学んでいます。縁側や屋上で育てる季節の野菜や園庭に実る柿や夏みかんなどの収穫、加工、調理の過程を通して「食」への関心を高めています。生きものと関わる活動として園庭でヤギを飼育。毎朝の糞の始末や小屋の清掃、餌やり、出産に立ち会う体験などを通して生命を見つめる優しい気持ちを育てています。歩ける乳児は道端の草花や風が吹く音、光を感じながら散歩を楽しみ、3歳児以上は異年齢同士で長距離散歩に挑戦。子どもたち自身で遊びのルールを決めるように支援する場合があります。</p>		

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当	
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当	
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当	
評価項目4の講評			
<p>日々の活動から運動会、生活発表会まで子どもたちの意見を尊重しながら実施しています</p> <p>年間行事計画に基づいて行事などを実施しています。年間行事及び体験活動を定めるに当たって、毎年年間行事に関しては従来から決まっているものを一旦白紙に戻し、保育者一人ひとりが改めて「子どもたちにとって何が必要か」を考え、「経験させたい」活動や内容を取り入れるように工夫しています。日々の小さな行事から運動会、生活発表会のような大きな行事にいたるまで、企画や内容などを子どもたちと話し合い、意見を尊重しながら実施しています。中でも、年長児が全ての年齢の子どもたちをリードし、小さな子に教えながら皆で取り組んでいます。</p> <p>年齢や発達に配慮しながら、皆で協力して行事や活動に取り組めるように支援しています</p> <p>それぞれの年齢や発達に配慮しながら行事を実施し遊びなどを支援しています。集団で行う活動はあるものの、とかく個々で行動しがちな3歳児は個別対応ができるように配慮し、4歳児は友だちと協力して物事に取り組める活動を計画。自分たちでそれぞれの役割やルールを決めて遊ぶ姿が見られます。5歳児は「集団の意識」を育てながら、自分のやりたいことを見つけ、友だちと協力して成し遂げられるようにサポートしています。運動会のリレーで走る順番を自分たちで決め、給食の献立を皆で考えるなど、様々な場面で協力して取り組む様子が見られます。</p> <p>保護者の協力を通して園が目指す子育て理念を共有しながら、「共育て」を進めています</p> <p>行事の実施に当たって事前に連絡帳アプリや園内の掲示で保護者に周知を図っています。途中経過もタイムラインで配信し、行事での子どもたちの様子を写真掲示するなど、親子で体験を共有できるように配慮しています。保護者の有志が主導する「どろんこサポーターズ」を組織。園の夏祭りに当たる「どろんこ祭り」の企画運営や防災、外国籍児童を対象とした遊びの企画、ピクニックなど、園との連携で活発に取り組んでいます。園舎の整備にも保護者の力を借りています。保護者との話し合いを通して園の理念を共有しながら「共育て」を進めています。</p>			
5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当	
評価項目5の講評			
<p>保育時間の長い子どもが家庭的な雰囲気の中でゆったりと過ごせるように配慮しています</p> <p>長時間、園にいる子どもができるだけ家庭的な雰囲気の中でくつろいで過ごせるように配慮しており、一緒に洗濯物を畳んだり保育士の膝の上で絵本を見たり、カードゲームをするなど大きな集団ではできない家庭的な遊びを提供しています。朝早く登園する子どもは1階のホールに集まり、早番の職員と一緒にヤギを小屋から園庭に出し、その後は「ままごとコーナー」で自由に遊んでいます。日中の園での子どもたちの状況や様子、担任保育士からの申し送りなどについてはお迎え伝達ノートに記載すると共に、口頭でも伝えて職員間で情報の共有を図っています。</p> <p>子どもの人数が減るなど、保育形態が変化しても落ち着いて過ごせる環境を整えています</p> <p>早朝の時間帯は、異年齢児保育でも乳児が落ち着いて過ごせる環境を整えています。18時30分からは子どもの人数が少なくなることから、家庭的でゆったりと過ごせるようなコーナー設定を行っています。お迎えが19時以降になる場合は保護者の要望によって夕食を提供しています。保育士同士の引継ぎは漏れのないように丁寧にっており、一人ひとりの食事や睡眠の状況など、保護者への伝達事項は専用のボードに記入しています。お迎え時には「伝達ノート」に記載された状況を確認した上で、遅番職員が延長時の子ども様子を保護者に伝えていきます。</p>			

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当	
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当	
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当	
●あり ○なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	○非該当	
評価項目6の講評			
<p>天気が良い日の縁側給食を基本に、食べることの楽しさや意欲を感じる支援をしています</p> <p>天気が良い日は「縁側給食」を基本としており、いつも心地よい風や光を感じながら食事を楽しんでいます。0歳児では「かじりとる」経験として、柔らかくした大きめの人参の野菜スティックを一人ひとりの発達に応じて提供するなど、子どもの口腔発達に合わせた援助を行っています。2歳ごろからは食べたい量を自分で加減できるようにしており、食べることへの意欲につなげています。職員も一緒に食卓を囲みながら、子どもの食事の様子や喫食状況を確認しています。年齢に関係なく、一緒に食べたい子ども同士、誘い合い異年齢で食事をしています。</p> <p>給食は味付け及び安全に配慮しながら提供し、食物アレルギーは全職員で共有しています</p> <p>給食の味つけや食材の形状は家庭での提供の仕方を聞き取って参考にすると共に、日頃の食べ具合を見ながら柔軟に対応しています。季節感のある献立や行事食を提供する時は、事前に関連する絵本を読んだり行事に因んだ話をしています。年齢が下の子の食事を盛り付けるのは上の子の役割となっており、好き嫌いに關しては食べている様子を踏まえて対応しています。離乳食は月齢で判断せず様子を見ながら慎重に進めています。食物アレルギーに関してはアレルギー検査の後に生活管理指導票及び除去食確認票を提出いただき、全職員で共有し提供しています。</p> <p>野菜や果物の栽培と収穫、加工などを通して、「食」に対する興味・関心を深めています</p> <p>年間計画に基づいて食育に取り組んでいます。専用のバスで30分の畑及び園のプランター・屋上庭園では1年を通して季節の野菜を栽培。畑仕事を労働と捉えながら職員と一緒に苗植えや種まき、肥料作り、水やり、草むしりなどを行います。畑で収穫した野菜や園庭の果物などの加工や梅干し、味噌作りを通して「食」への興味・関心を深めています。金融教育の一環として、加工した食品は保護者や本社職員に販売。お店に行つて野菜や加工食品の値段や包装の仕方を調べたり、保護者が経営する飲食店でメニューや調理に関する話を聞く機会を設けています。</p>			
7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○非該当	
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○非該当	
評価項目7の講評			
<p>看護師が中心となって子ども自身が自分の力で健康維持ができるように取り組んでいます</p> <p>保健計画に基づき、看護師を中心に子ども自身が自らの健康を維持できるように取り組んでいます。毎月、全クラスを対象に手洗い・歯磨き指導を定期的実施。絵本の読み聞かせやエプロンシアターなどを導入しながら、子ども自身が興味・関心を持って取り組めるように支援をしています。保護者には感染症への注意喚起と共に「足育」につながる靴の選び方などの掲示を行っています。本部が保育の目標のひとつとする「ケガをしない強い体を育てる」取り組みによって病欠する子どもが減り、感染症も大きく広まることなく、健康的な子どもに育っています。</p> <p>医療的なケアが必要とされる子どもは、日頃から専門機関と連携し情報を共有しています</p> <p>投薬が必要な子どもは保護者が「与薬依頼票」に必要事項を記入し、園が1回分ずつを預かり指定の時間に投薬しています。0歳児は毎月、1歳から5歳児は年に2回、嘱託医による健康診断を実施。流行している感染症や保健に関するアドバイスを受けています。嘱託医とは子どもの健康面で気になることがあれば何でも相談できる関係にあります。園での事故・けがは「ケガ事故発生時対応フローチャート」に基づいて救急車の手配及び本部の緊急連絡先に報告・相談し、病院受診、経過観察などの対応を決定。年2回、区の特別支援児巡回を受けています。</p> <p>乳幼児突然死症候群の予防など、保護者と連携しながら子どもの健康維持に努めています</p> <p>季節ごとに流行する恐れのある感染症対策として、毎月発行する保健便りに情報を掲載すると共に、園内で感染症が発生した場合には、必要に応じて園内に掲示または連絡帳アプリで注意を促しています。子どもの健康状態が気になる場合は、登園時の視診と同時に保護者に家庭での様子や睡眠時間、食欲などについて確認をしています。乳幼児突然死症候群の予防にも細心の注意を払っており、5分おきに体位確認及び布団や毛布の位置確認、バイタルチェック、うつ熱予防のチェックを行った後に連絡帳アプリに記入、配信し、保護者の安心につなげています。</p>			

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○非該当
評価項目8の講評		
<p>保護者と信頼関係を築きながら、就労状況の変更などに対応する仕組みを整えています</p> <p>保護者とコミュニケーションを図ることで信頼関係を築くように努めています。職員は登降園時に保護者への挨拶を欠かさず、前日からの子どもの状況などを聞き、園での様子を丁寧に伝えていきます。転職や勤務先の事情などによる就労状況の変更や諸事情にも柔軟に対応しており、相談内容によっては施設長、主任が面談に同席して助言することもあります。保護者からの相談に関しては日時や相談内容、返答した内容などを「保護者面談記録」に記載しています。相談内容によっては必要に応じて区及び関係機関と連携を行い、解決に向けた調整を行っています。</p> <p>懇談会及び保護者有志の「どろんこサポーターズ」の活動を通して交流を深めています</p> <p>年2回行われる「保護者懇談会」は、園からの子どもたちの成長報告や今後半年間の保育目標の提示などと共に、保育や教育内容についての意見交換などを通して園・職員及び保護者との相互理解、信頼感を深める機会となっています。また、保護者同士が交流できる貴重な場としても位置付けており、子育てについての情報や悩みを共有しています。保護者懇談会をきっかけに結成された有志による「どろんこサポーターズ」が中心になって、防災活動やピクニック、キャンプ、英語についての活動などを行っており、保護者同士の交流を深める機会としています。</p> <p>保育参加及び親子行事などを通して保育に対する関心を高め、養育力向上に努めています</p> <p>子育ては園と保護者が両輪となって行う「子育て(ともそだて)」という考えを伝えていきます。発達した子どもの姿をより深く知ってもらうために、保護者が日常の保育を体験する「保育参加」の機会を積極的に設けています。終了後はアンケートを実施。参加しての感想や気づいた点、給食などへの意見を保育運営に生かしています。夏祭り「どろんこ祭り」や「お月見会」、運動会、SDGs活動の一環としてごみを集め分別しながら歩く「ごみスポ」など、親子行事を通して保育への関心を高めてもらうと共に、父親を含めた養育力の向上につなげていきます。</p>		
9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当
評価項目9の講評		
<p>「銭湯でお風呂の日」や商店街ツアーなど、地域の人と交流する機会を大切にしています</p> <p>園が大切にしている地域交流のひとつに、月1回、3～5歳児が保育士と一緒に契約銭湯へ出かける「銭湯でお風呂の日」があります。子どもたちは15時からの営業時間に合わせ、タオルと着替えを持って30分歩いて行き、地域の方々と裸の触れ合いをしています。また、様々な仕事に触れ、地域の大人と目を見て話すことを目的とする「商店街ツアー」を実施。様々なお店や会社、教育機関、行政機関を訪問し、子ども自らが質問したり言葉を交わして交流しています。近所の人が昆虫の幼虫を持ってきてくれるなど園の近くに住む人たちとの交流も盛んです。</p> <p>子育て支援カフェ「ちきんえっぐ」などを通して、子育てしやすい環境を目指しています</p> <p>地域子育て支援カフェ「ちきんえっぐ」を運営しており、地域の子育てに役立つイベントを通して、地域全体でより良い子育てができる環境を目指しています。毎月1回、公園で子育て中の親子を対象に出前保育を実施。保護者としての在り方を考える講習会や勉強会を行う「寺親屋」を始め自然の食材を使って料理をする「自然食堂」、自然との関わりを学ぶ「自然学校」などの活動も活発に行い、情報誌も発行しています。公園での高齢者との触れ合いや高齢者施設訪問など、世代間交流や園庭開放、体験学習を通じた異年齢交流にも積極的に取り組んでいます。</p> <p>園は様々な活動を通して地域の人たちと交流を深めており、活動拠点にもなっています</p> <p>毎年7月に開催する夏祭り「どろんこ祭り」や9月に実施する運動会に地域の方や卒園生、近隣保育園の園児を招いて交流を深めています。商店街ツアーで訪れる楽器店の人によるウクレレ演奏会を開催。折り紙を習うなど、区社会福祉協議会のボランティアグループとも交流しています。全面ガラス張りの開放的な2階の「子育て支援室」を開放するなど、地域のボランティアグループの居場所作りにも貢献しています。本部が目標とする「人対人コミュニケーション」の向上を目指す中で、施設長は地域の人たちとの交流が広がりを見せていると感じています。</p>		

調査対象	保育園を利用している58世帯を対象に調査を実施しました。在園児は70名で、兄弟姉妹が同園に通う世帯は年齢の一番低い子どもについて回答してもらいました。
調査方法	アンケート調査は、Webアンケートシステムを使用し、無記名方式で行いました。案内は施設を通じて利用者へ配付し、集計は評価機関が行いました。調査結果は選択回答だけでなく、記述式の回答についても匿名性に配慮してまとめ、施設に報告しました。
利用者総数	70
利用者家族総数(世帯)	58
共通評価項目による調査対象者数	58
共通評価項目による調査の有効回答者数	47
利用者家族総数に対する回答者割合(%)	81.0

利用者調査全体のコメント

保育園に対する総合的な感想は、「大変満足」が36人(76.6%)、「満足」が10人(21.3%)で「満足」以上の回答は合計46人(97.9%)でした。

自由意見には、「子ども一人ひとりを尊重し、大切に扱ってくださる姿に感謝しています。子どもの発育に関わる行事や、イベントを普段から率先して取り入れてくださっていると感じます」「都心にありながら泥遊びができ、園庭やヤギの飼育等、環境に恵まれた中で子どもを預かっていただき大変満足しています。真っすぐに向き合ってくださいのチャレンジ精神豊富な経営層や、子どもに愛情深く関わり保護者にも丁寧に説明して下さる先生方に感謝の念が絶えません」「保育園でたくさん遊んでもらい、たくさん愛情を注いでもらっているのが子どもを見ていれば分かります」など園への信頼と感謝を寄せる声が多く見られました。

項目別に見ますと、「保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか」「保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか」、「保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか」で95.7%の保護者がそれぞれ「はい」と回答し、とても満足度が高い様子が読み取れます。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	46	1	0	0
「はい」が97.9%、「どちらともいえない」が2.1%でした。 自由意見には、「たくさん歩いてくれるので、身体、脳の発育がしっかりとでき、成長していると感じます」「毎日しっかりと体を動かすことで、特に足腰を鍛えられていると思います」「自分の身の回りのことができるようになりました」「自宅では体験できないような取り組みをしてもらえ、とてもありがたいです」「様々なことにチャレンジさせてくれる点に、いつも感謝しています」「異年齢との交流があり、兄弟姉妹のような関係があるように思います」などの声がありました。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	45	2	0	0
「はい」が95.7%、「どちらともいえない」が4.3%でした。 自由意見には、「畑での活動や、野菜をちぎったり、自然と触れ合ったり、高齢者と交流したり、地域との交流もあってとても良いと感じます」「泥んこ遊びも板についています」「感触遊びや食育、マット運動など家庭では取り入れるのが難しいことも導入してくださっています」「坐禅、雑巾掛け、泥遊び、梅仕事、魚の解体、味噌作り、焚き火でマシュマロ、ヤギの飼育、水遊び、絵の具遊び等、家庭では到底体験し尽くせない、魅力的で豊かな経験ができます」などの声がありました。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	44	3	0	0
「はい」が93.6%、「どちらともいえない」が6.4%でした。 自由意見には、「手作りで栄養が考えられた献立になっていて、家では不足しがちな野菜も保育園では食べてくれているようです。園で調理のお手伝いをさせてもらっているからか、家でも率先して料理の手伝いをしてくれます」「家では食べないものを保育園で練習しているそうです」「写真で献立を見ることができるのが助かります」「保育園だと食べられる献立も多いです」「自分でごはんを取り分けられるのが良いと思います」などの声がありました。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	46	1	0	0
<p>「はい」が97.9%、「どちらともいえない」が2.1%でした。 自由意見には、「いろいろな行事や社会との関わりができて、とても良いです」「園庭のどろんこ山やヤギの飼育など、都内の他の保育園ではしていない、自然や動物と関われる環境がありとても満足しています」「都内にも関わらず、遠足で自然と関わる機会があります。さらに機会が増えるより良いと思います」「家庭だと制限してしまう活動も、のびのびと行わせてくれます」「他の園にはない、どろんこらしい取り組みが素晴らしいです」などの声がありました。</p>				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	36	7	0	4
<p>「はい」が76.6%、「どちらともいえない」が14.9%、「無回答・非該当」が8.5%でした。 自由意見には、「柔軟に対応をしていただき、すごく助かっています」「18時30分まではかなり柔軟なので、仕事でイレギュラーなことがあった時は本当にありがたいです」「その都度柔軟に対応をしていただき、感謝しています」「お迎えが早まる時も嫌な顔をせずに対応してくれるそうです」「減多にないですが、柔軟な印象です」などの声がありました。</p>				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	32	12	2	1
<p>「はい」が68.1%、「どちらともいえない」が25.5%、「いいえ」が4.3%、「無回答・非該当」が2.1%でした。 自由意見には、「経営層、職員の先生方が愛情深く子どもたちを尊重しつつ、安全性にも配慮をしてくださっていることが伝わってきます」などの声がありました。</p>				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	40	5	1	1
<p>「はい」が85.1%、「どちらともいえない」が10.6%、「いいえ」が2.1%、「無回答・非該当」が2.1%でした。 自由意見には、「年間の行事予定をあらかじめ出してもらっているのも、予定が立てやすく助かります」「休日でありたいです」「基本土日や平日の遅い時間なので、参加しやすいです」などの声がありました。</p>				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	38	9	0	0
<p>「はい」が80.9%、「どちらともいえない」が19.1%でした。 自由意見には、「一緒に子育てをしてもらっているようで心強いです」「日常的な悩みなどを聞いてもらっています」「先生により個人差はありますが、皆さんとても親身になってくださり、大好きです」「その日の活動を個別に伝えてくれています。伝達以外にも見聞きした出来事があれば、ちょっとしたことでも伝えようとしてくれるのが嬉しいです」「育児で悩んだ時に相談に乗ってくれて、いろいろなアドバイスをくれて、とても助かっています」などの声がありました。</p>				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	44	3	0	0
<p>「はい」が93.6%、「どちらともいえない」が6.4%でした。 自由意見には、「保育士とは別に専門職員の方がいらっしゃって、いつもきれいで感謝しています」「全員裸足にも関わらず、いつも清潔に保たれていると思います」「きれいで清潔感があります」などの声がありました。</p>				
10. 職員の接遇・態度は適切か	43	3	1	0
<p>「はい」が91.5%、「どちらともいえない」が6.4%、「いいえ」が2.1%でした。 自由意見には、「丁寧で誠実だと思います」「どの職員の方もすれ違うたびに挨拶をしてくださいます」「経営層も気軽に声をかけてくださるので、いろいろ相談しやすいです」「いつも明るく気さくな先生方に、感謝しかありません」「熱心で子どものことをよく見ている先生が多く、いつも頼もしく感じています」「子どもが一生懸命な先生たちから愛情をもらっているんだと感じます」などの声がありました。</p>				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	44	3	0	0
<p>「はい」が93.6%、「どちらともいえない」が6.4%でした。 自由意見には、「群を抜いて、良いと思います」「発熱時にすぐに連絡をいただけ、またお迎えまでに少し時間がかかる場合でもしっかり様子を見てくれるため、助かっています」「微熱の場合は様子を見てくれて、わずかな体調の変化やけがも気にかけてくれていると思います」「細かいけがなどにも配慮してくださっており、とてもありがたいです」「柔軟に対応をいただき、感謝しかありません」などの声がありました。</p>				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	33	10	1	3
<p>「はい」が70.2%、「どちらともいえない」が21.3%、「いいえ」が2.1%、「無回答・非該当」が6.4%でした。 自由意見には、「まだほとんどありませんが、もしあった場合は園でしっかり対応をしていただけると信頼しています」「信頼できませんが、自分の子どもが加害者になった場合は教えてほしいです」などの声がありました。</p>				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	42	4	1	0
<p>「はい」が89.4%、「どちらともいえない」が8.5%、「いいえ」が2.1%でした。 自由意見には、「個人の意思を尊重しています」「何でも自由にやらせてくれています」「個別対応をしてくれていると感じます」「子どもも大人も自主性や主体性が尊重されている雰囲気です」などの声がありました。</p>				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	41	5	0	1
<p>「はい」が87.2%、「どちらともいえない」が10.6%、「無回答・非該当」が2.1%でした。 自由意見には、「私自身へはありませんが、他の保護者からセンシティブなことについて不用意な確認があったと聞きました」などの声がありました。</p>				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	42	5	0	0
<p>「はい」が89.4%、「どちらともいえない」が10.6%でした。 自由意見には、「懇談会や毎月のおたよりをはじめ、たくさんの掲示物で細かくお知らせしてくださって、ありがたい限りです」「降園時に、必ず一日の子どもの様子を教えてください。連絡帳も丁寧に書かれているので、まだ言葉が喋れない年齢の子どもでも、その日の活動内容や様子がよく分かると思います。共通の掲示板での文章付きの写真投稿は、毎日楽しみにしています」などの声がありました。</p>				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	38	7	1	1
<p>「はい」が80.9%、「どちらともいえない」が14.9%、「いいえ」が2.1%、「無回答・非該当」が2.1%でした。 自由意見には、「園のルールにはないことを相談した際、柔軟に対応をくださり、大変助かりました」などの声がありました。</p>				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	27	13	3	4
<p>「はい」が57.4%、「どちらともいえない」が27.7%、「いいえ」が6.4%、「無回答・非該当」が8.5%でした。 この質問に関連するコメントはありませんでした。</p>				

株式会社学研 Advance
(福祉サービス第三者評価機関)

〒141-0031 東京都品川区西五反田2-11-8
TEL03-5436-8191 FAX03-5487-8810

●評価機関認証

東京都福祉サービス第三者評価機関認証
埼玉県福祉サービス第三者評価機関認証
千葉県福祉サービス第三者評価機関認証
神奈川県福祉サービス第三者評価機関認証
社会的養護関係施設第三者評価機関認証